

まちの核となる柔軟な庁舎

テーマ①住民の安全・安心な暮らしを支える庁舎の提案

誰にでもわかりやすい配置・ゾーニングは、日常的な機能性、利便性を備えているのはもちろん、災害時における**防災拠点としても有効に機能**し、市民の安心、安全を支えます。またシンプルな平面計画は、庁舎としての機能性や居住性を十分に備えつつ、将来的な使い勝手の変化にも**柔軟に追従する冗長性**も持ち合わせています。

フレキシブルな空間構成

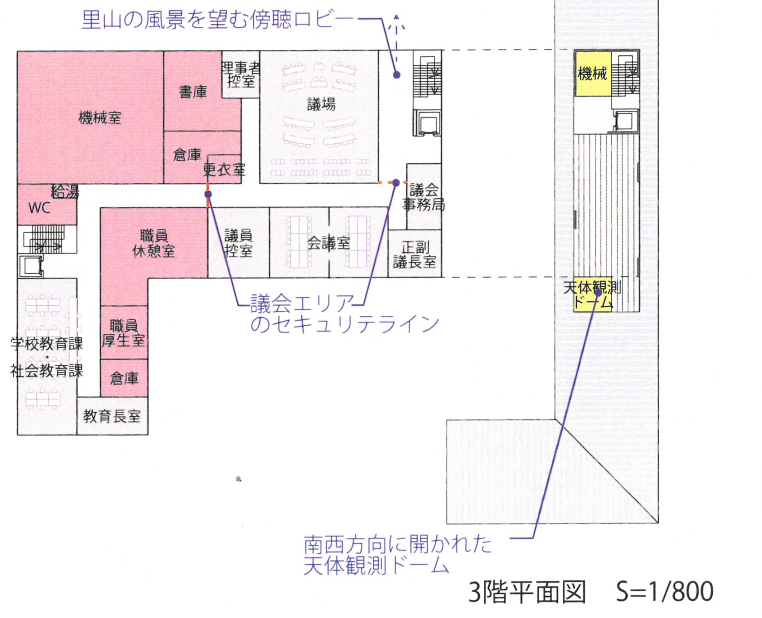
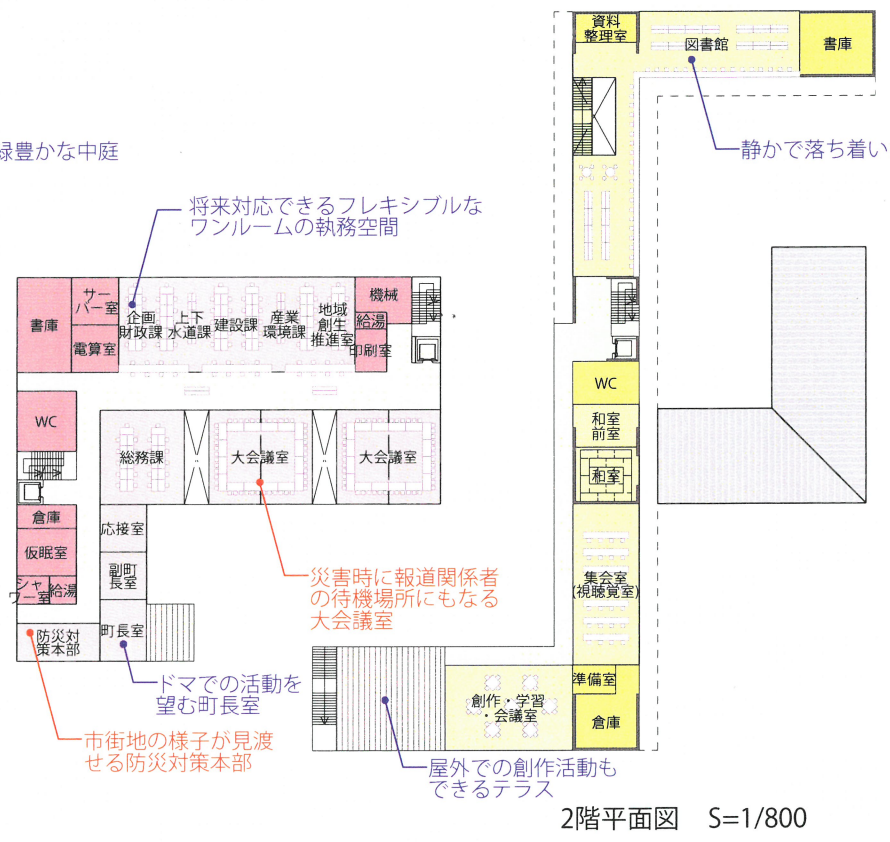
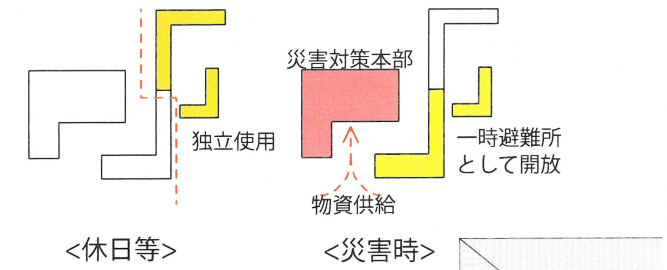
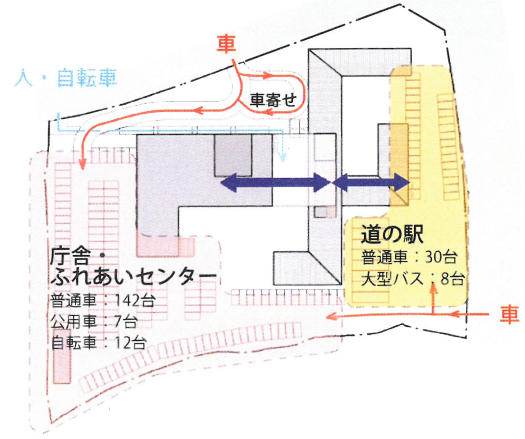
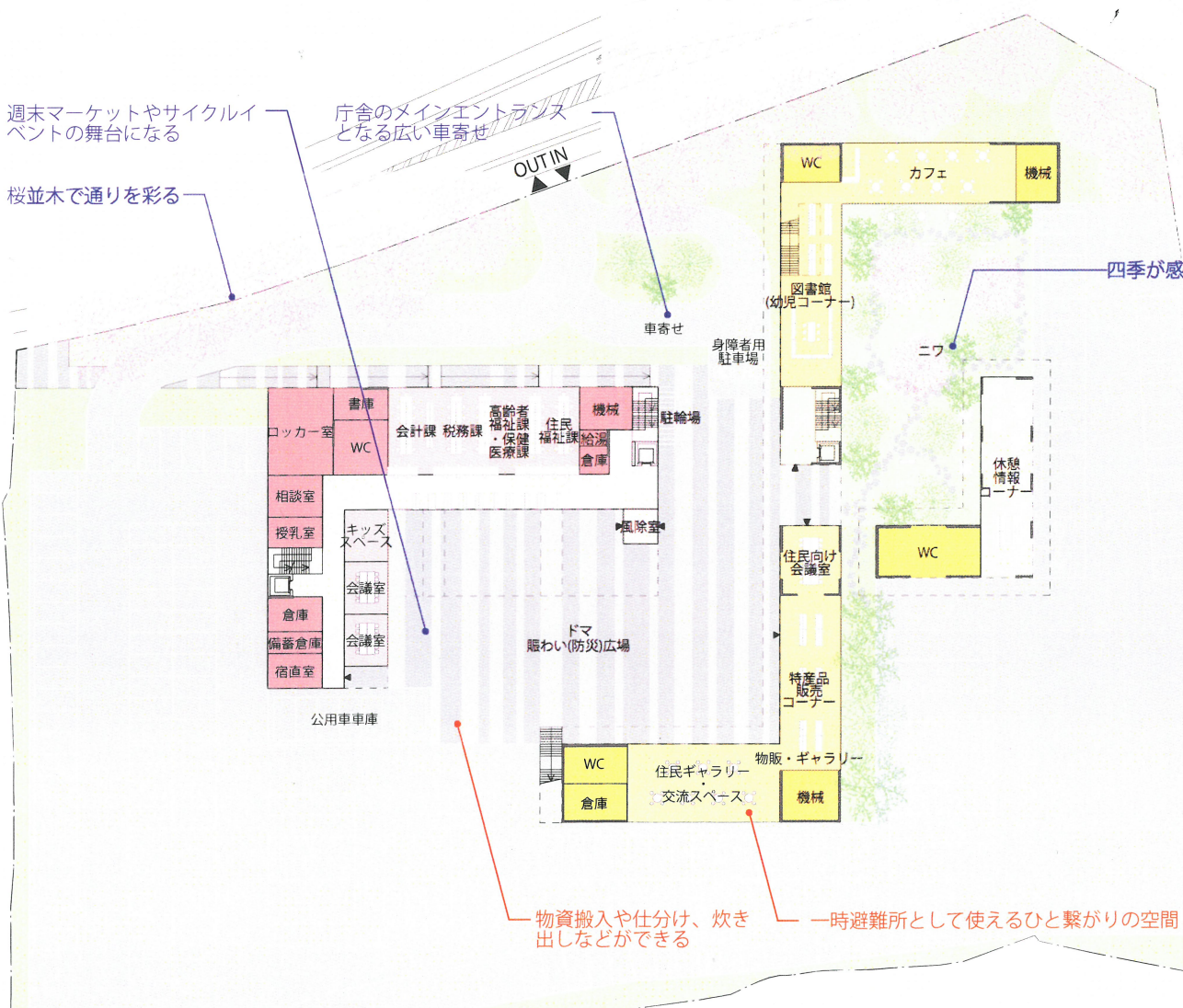
「L」形をした庁舎は、必要とされる空間の大小に応じて**明快にゾーニングすることができ**ます。執務室や大会議室等の大空間は東西のウイングに配置し、余裕を持ったレイアウトや将来的な組織改編にも柔軟に対応することが可能です。理事者エリアや小会議室等は南北の細長いウイングに配置し、採光や通風に配慮した、**快適な空間を確保しやすい構成**です。

どこからでもアクセスしやすい

市街地から徒歩でアクセスする方、車で来庁する方、様々な来庁者にとって**わかりやすく使いやすい配置計画**とします。歩行者は車と交錯することなく庁舎エントランスまでスロープでアクセスできます。駐車場は利用者の多い庁舎側を中心に、道の駅やふれあいセンターにも近接した使いやすい計画です。また、庁舎エントランスにはタクシー利用者や身障者に配慮したゆったりとした車寄せを設けます。

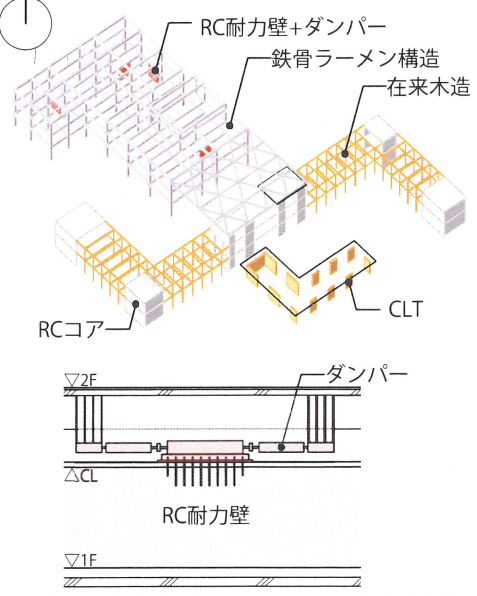
災害時の機能転換・時間外利用が容易

4つの「L」はそれぞれ**独立させて運用**することで、休日や時間外利用時のセキュリティ管理、災害時における機能転換を容易にします。休日は道の駅とカフェ・図書館のみ運用したり、災害時は庁舎を防災対策本部や報道機関の待機場所、〈ドマ〉を物資の仕分けスペース、道の駅を一時避難所として活用するなど、**状況に応じて柔軟に使い分け**ていくことが可能です。



合理的で安心な構造計画

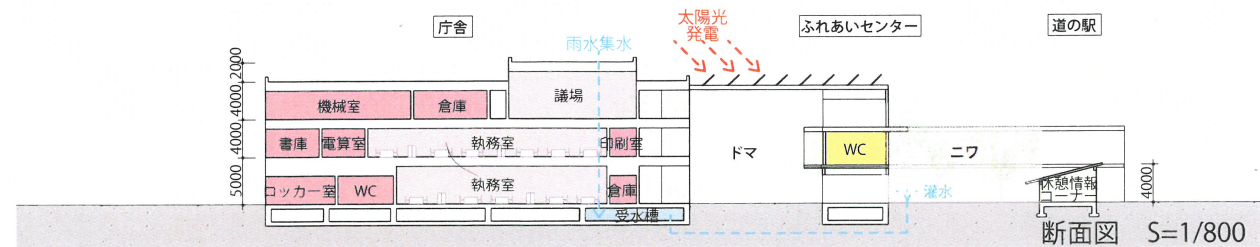
庁舎は**鉄骨ラーメン構造**とし、地震時の加速度や水平変位を低減し、**家具転倒や二次部材の損傷を抑える**ことにより地震後の継続使用を可能とする「付加制振」を採用します。制振ダンパーは1階のみへの設置とし、基礎から立ち上げたRC壁と2階床梁との間にブレースを設けることで、最も効率の良い制振構造とします。この方法は大臣認定を必要とせず、公共建築も含めて十分な実績があります。加えて、重要な部屋については**床免震**の採用も検討します。ふれあいセンターは**在来木造とRC造の併用構造**とし、**耐震要素や防火壁を兼ねたRCコア**を分散配置することで、木造部分は耐震要素のない開放的な設えとします。道の駅は**CLT**を用いた構造とします。内装現し仕上げのCLTパネルを外周部・屋根に用い、工期短縮を図ります。



自然を活かし、災害に備える設備計画

可能な限り自然エネルギーを活用しながら、災害時を想定した**バックアップ機能を整備**します。屋根雨水を集水利用して〈ニワ〉の緑化灌水に活用したり、大屋根に太陽光パネルを設置したり、**来庁者にも環境配慮が見える計画**とします。

バックアップ機能の整備	長時間形非常用発電機の設置 災害時利用を見据えた受水槽、防災井戸の計画 雨水再利用設備の設置検討
セキュリティ機能の強化	グレードに応じたセキュリティラインの構築
省資源・省エネルギー化への対応	Low-Eガラス、高断熱素材の採用 全館LED照明、各種センサーの制御機器の採用 電力貯蔵システムの導入検討
自然エネルギーの活用	太陽光発電設備の設置 卓越風を取込む自然換気システムの構築 木質バイオマス利用のペレットストーブ、ボイラーの設置検討 屋根雨水を集水貯留し、トイレや緑化灌水の水源として活用
ライフサイクルコスト低減への対応	将来の機器更新に配慮した、設備諸室及び各種シャフト計画 簡易型BEMSの導入による設備機器の適正運用管理



概算工事費

項目	金額
新庁舎	15億円
山吹ふれあいセンター	9億円
道の駅	1億円
建築工事費	25億円
外構工事費	4億円